

## 目標達成計画

作成日：平成29年4月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】								
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	考えられる原因	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間		
						短期	中期	長期
1	8	○職員と、本人は暮らしを共にする者同士の関係を築く時間が少ない。	職員3人(時間的には2人の時もある)で食事作りや重度入居者のトイレ介助、風呂介助等に人手や、時間をとられているため。	職員と、本人は暮らしを共にする時間を増やす。また本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援を行う。一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める。	利用者との活動を活発化するため、食材(完成品)を購入し、共に活動できる時間を確保する。排泄ケア向上のため、TENA(スウェーデン製)のおむつを導入、試行し、活動(外出等)でしやすい環境をつくる。転倒予防を行い、活動する時間が減少しないようにする。	1ヶ月に1～2人の入居者の希望や意向を実現する。	2ヶ月で3～4人の入居者の希望や意向を実現する。	6ヶ月でほぼ全員の入居者の希望や意向を実現する。
2	自己19	○家族会などへの家族の参加が少ない。	参加できない家族の「理由」があるため。	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築く。	家族会の開催を工夫し参加しやすい曜日や内容を検討する。現在ひな祭り会のために1年かけて家族、利用者と「さげもん」づくりを行っているが、これを継続し、このような機会を通じて、家族の苦労話などを傾聴し、介護者としての家族を支援していく。参加の可否などをきいたり、アンケートなどで家族の思いを聞く。	5月の家族会の出席の可否をいただく。	7月の家族会を開催する曜日などをアンケートで聞く。	9月の家族会(敬老会)に倍増を目指す。
3	13	○火災や地震、水害等の避難訓練しても、なかなか身につかない。	訓練と訓練の間がながいので、忘れるため。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全利用者と、全職員が身につけるため、地域との協力体制を築きながら、繰り返し避難訓練を実施する。	水害想定避難訓練の実施や、2か月に1回程度の火災想定避難訓練を繰り返し実施する、また、地元消防団との連絡を、早めに行い、勤務表への日程書き込みを習慣化し、実施する。	2か月に1回の訓練を実施する。	4か月では2回の訓練を実施する。	6か月では3回の訓練を実施する。
4	自己34	○今後、多くの入居者に高齢化等のために転倒が増えることが予想される。そこで、発生を予防する取り組みを行う必要がある。	高齢化や運動不足による筋力低下や、バランス能力等の低下のため。	過去の事故報告やヒヤリハット事例分析を十分に行い、転倒や事故の原因を把握し、発生を予防する取り組みを行う。	ヒヤリハットや事故報告の分析ソフトを作成しているので、それをさらに活用する。また、転倒予防等のために、ICT機器(ロボットカメラシステム等)を導入して、転倒の記録から原因を分析し、対策を立てて未然に防ぐ機会をつくる。利用者に対しては運動の促進、フットケア、低栄養の注意をすることなどをおこなって予防していく。	2か月ICT機器導入調査、佐賀県などへの問合せ。	看護師によるフットケアや体重測定などで栄養状態を把握し対処する。	1年間通した室内歩行や外出等での自力歩行、車イス座位を勧める。
5						ヶ月		

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。